
「ループス腎炎に対するグルココルチコイドの早期減量を達成するための予測因子とその転帰に関する後方視的観察研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、【埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2000年1月1日から2025年12月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し、ループス腎炎と診断され、検査・治療を実施した患者さんを対象としております。

一部は、過去の当科での研究(総2021-163:ループス腎炎・血管炎症候群の最適な治療戦略、および総2024-172:ループス腎炎・血管炎症候群に対するMulti-target療法の有効性と安全性に関する後方視的観察研究)で収集した情報を用いて研究を実施します。

2. 研究の目的

本研究は、当院において診断・治療されたループス腎炎患者さんを対象とした後ろ向き観察研究として、導入療法開始後3か月時点でのグルココルチコイド低用量到達の予測因子を同定するとともに、低用量到達の有無が長期腎予後に及ぼす影響を明らかにすることを目的とします。

3. 研究期間

病院長の許可後～2027年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年3月10日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

診療録にある検査情報、診療記録

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である花岡洋成が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。本研究で得られた情報は当院における将来の研究で二次利用する可能性があります。

2. 試料・情報の取得方法

ループス腎炎と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた血液・尿検査、病理組織検査、生理機能検査、画像検査および診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

・ 埼玉医科大学総合医療センター リウマチ膠原病内科 花岡洋成（研究責任者）

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文

5. 試料・情報の提供方法等について

該当しません。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

連絡先

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター

研究責任者：リウマチ・膠原病内科 教授 花岡洋成

連絡先 研究事務局 049-228-3574(直通)，（平日 10 時～17 時）

メールアドレス hhanaoka@saitama-med.ac.jp（“AT”を@に置き換えください）

○研究課題名： ループス腎炎に対するグルココルチコイドの早期減量を達成するための予測因子とその転帰に関する後方視的観察研究

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 教授 花岡洋成